



## SGH活動で学んだこと、考えたこと

◇ 今回は、木村岳瑠さん（北海道大学水産学部）のレポートです！

私が1年生の時に、関高校はSGH校に指定されました。将来研究者として国際的に活躍したいという夢があった私は、それから3年間、SGH活動に積極的に参加してきました。その中で、私が身につけたこと、学んだことを伝えたいと思います。

現在は、SGH活動で育んだ将来の夢を実現するため、北海道大学水産学部で学んでいます。

### 礼文島の国際共同調査 ～様々な分野の総合的研究～

1年生の夏休みには、北海道の礼文島での国際共同調査（国際フィールドスクール・イン・礼文島、北海道大学主催）に参加しました。そこでは、オホーツク文化期の遺跡の発掘を通して過去の人類の活動を探るために、国内だけでなく国外からも研究者が集まり、研究を進めていました。私たち関高生も竹ベラや串を使って、実際に発掘を行いました。私たちの発掘現場からはクジラやアシカ、無数の魚骨や貝殻が出土しました。私はそれらの痕跡から、オホーツク人と動物との深いかかわりを知り、とても興味を持ちました。発掘は、考古学分野だけのものだと思っていましたが、人類学、動物学など多くの異なる分野が融合して新しい知見が得られるフィールドだと知りました。

ここで印象に残っているのは、研究者の方々が自分の好きな分野を研究し、お互いに英語で対話しながら自分の能力を生かしている姿が本当に楽しそうだったということです。私も将来はそのような研究者になりたいという思いを強くしました。私は事後学習としてヒグマとオホーツク文化期の人々との関係を詳しく調べました。校内で調査の成果をまとめてプレゼンする機会もあり、人にわかりやすく伝える難しさを知り、良い経験になりました。また、研究成果をポスターにまとめ、日本考古学協会のポスターセッションで発表しました。この調査を通して、異分野の学問の融合の価値の大きさや国際共同調査という場で英語が不可欠であることを実感しました。



## 英国研修 ～姉妹校ヘイドン校、オックスフォード大学へ～

2年生の秋には、イギリス研修に参加しました。イギリスでは関高の姉妹校であるヘイドン校の生徒との交流やオックスフォード大学の訪問、大英博物館の見学などをしました。ヘイドン校では、選挙権年齢が18歳に引き下げられることについて英語でディスカッションをしたり、昼休みには一緒にサッカーをしたりしました。オックスフォード大学では、学生と参政権や将来の夢について活発に話しました。その中で、英語が通じることもありましたが、相手の言っていることが理解できないことも多くありました。こういった現地の人たちとの交流や、イギリスの伝統的な街並みなどの文化に触れられたことはとても良い経験になりました。

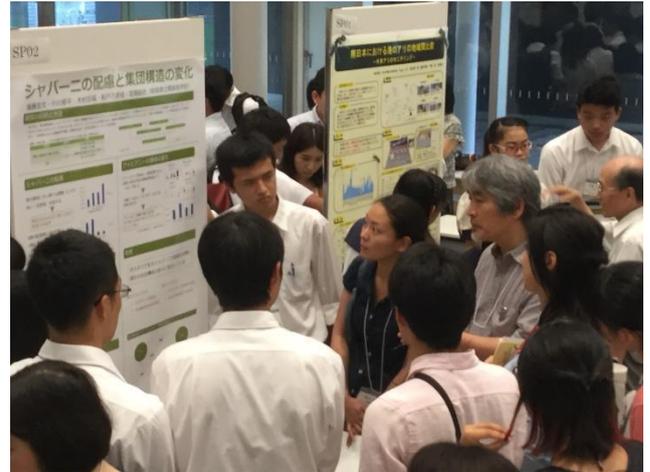
研修後は、イギリスで学んだことを校内や朝日大学において英語でプレゼンする機会があり、しだいに英語で表現するという楽しさを感じるようになりました。中でも、朝日大学でカリフォルニア大学の学生の方とランチを食べながら英語で趣味の話や将来の夢の話をしたことがとても楽しかったことを覚えています。



## 霊長類研究 ～ゴリラの行動観察と学会発表～

2年生では、さらに霊長類研究を始めました。最初に基本的な観察方法を中部学院大学の竹ノ下祐二先生に教えていただき、東山動物園のニシローランドゴリラの集団の観察をしました（次頁左写真）。観察を続ける中で、この集団の社会的関係が知りたくなり、観察によって明らかにしようと考えました。グループ5人で観察方法を考え、仮説検証のデータを得るにはどのような方法が良いのか試行錯誤を繰り返しながら、10か月に渡って5回の観察を行いました。

それらの成果をまとめ、ポスターを作って発表方法を考え、日本霊長類学会で発表しました。そこでは京都大学の山極壽一先生をはじめとした霊長類研究者の方々から、観察方法やデータ分析の方法について様々な助言をいただきました（次頁右写真）。学会では霊長類学者の発表を聞き、発表方法やポスターの作り方など、様々なことを学びました。また、学会で出会った他校の同級生にも大きな影響を受けました。長時間の観察やデータの集計など、大変なことも多くありましたが、普段はお話を聞けないような大学の教授や、研究者の方々から直接お話を聞いたことは私にとって大きな経験になりました。何よりも自分で問題を見つけ、それを解決するための方法を自分で考えたことはきっと将来の糧になると思います。



学会での発表が終わり、私たちはこの調査の成果を市民の皆さんに広めたいと考え、講師として関市立図書館で一般向けの講座を開きました。学会発表とは異なり、聴衆にわかりやすく伝え、興味を持ってもらえるような内容になるように心がけました。将来研究者になった時、一般の方々に向けた講座を開く機会があると思います。このような講座を自ら開いたことは、将来に向けてのより実践的な経験になったと思います。

この研究はゴリラの成長をとらえ、その集団構造の変化から人間社会の起源を探るきっかけになると考えています。そのためには長期的な観察が必要なので、これからも後輩に受け継いでいってほしいと思います。

## SGH活動を振り返って..

私は、関高校でSGHの活動に参加し、大学の教授や学生、研究者の方々、また、同じ活動に参加した同級生にも大きな刺激を受けました。実際に研究のようすを見たり、経験したりしたことで将来の選択肢が広がり、目標も明確になってきたと思います。活動の中で学んだ考え方やプレゼンの方法は大学に入っても役に立ちますし、物事を広い視野で見られるようになったと実感しています。

SGHの活動はAOや推薦入試でも大きな武器になりますが、何よりも今まで得た経験は将来の目標に向かっていくための糧になると思います。ぜひSGHの活動には積極的に参加してください。将来の目標を見直すきっかけやモチベーションになるだけでなく、今まで気がつかなかった新しい道も見えてくるかもしれません。

私は、自身の夢である海洋性哺乳類の研究をするため、北海道大学水産学部に進学しました。北大での研究については、機会を改め報告させていただきます。



クラーク博士像の前で